

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293600027		
法人名	社会福祉法人 秋桜会		
事業所名	グループホームうさぎの家		
所在地	千葉県印西市小林1644-1		
自己評価作成日	平成31年1月12日	評価結果市町村受理日	平成31年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成31年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の希望(散歩に行きたい、好物を食べたいなど)を尊重し、できるだけ叶えられるよう支援している。知人、家族との電話や手紙のやりとりを積極的に支援し、孤独を感じさせぬケアに努めている。また、不安そうにされている方には寄り添って傾聴し、少しでも安心され笑顔で過ごしていただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム全体で利用者に寄り添う支援、人を傷つけない支援に努めている。職員はお互いを尊重しあい、助け合いの精神を大切にしており、利用者に対しても自然に本人本位の支援ができていいると思われる。気が付いた事があれば職員全員で共有し、改善に取り組む仕組みもある。また、近隣小学校で認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、市委託の認知症カフェを開催するなど、地域や行政との連携も取れている。日常的な外出の他、日帰り温泉ツアーや夕食を兼ねたイベントを実施して外に出る機会をつくっている。また、家族参加型の節句パーティや家族会主催のバザーなど、家族と共に利用者を支えていこうとしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	表玄関、裏玄関、スタッフルームに理念を掲示し、それに基づき事業計画を作成している。また、理念に基づいたケアが、実施できるように、会議で見直しを行い全職員で共有できるように取り組んでいる。	理念のひとつ「質の良い介護サービス」に向けて研修を行い、会議の中でも利用者本位を優先している。職員は利用者寄り添う支援に努め、助け合いの精神で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の長寿会に在籍している方もいる。近所の方が野菜を届けて下さったり、一人で外に出られた入居者を、うさぎの家まで送り届けて下さることもある。	地域との交流を大切にしており、利用者の笑顔の源にもなっている。町内のお祭りにはお神輿がホームの中庭に来てくれる。また、近隣の保育園とも定期的に交流がある。地域で見守りをしてくれるので、利用者が一人で出かけることができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と協力しながら、法人の活動として、認知症カフェや地域住民向けの認知症講座を開催したり、認知症の方を理解してもらえるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、民生委員、町内会、老人会、家族代表の多方面の委員により、2か月に1回開催している。活動報告、意見交換からサービス向上に活かしている。	同法人の他の施設と合同で年間6回開催している。市の担当課職員や医師など多方面から多くの人が出席している。ホームからは利用者の現状やヒヤリハットを報告し、その後意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも、市の職員や介護相談員に参加していただき実情を報告している。	運営推進会議には市の職員が参加している。また市から認知症サポーター養成講座の講師を依頼されるなど、協力関係ができていく。以前、目標達成計画に掲げた「介護相談員からの報告を訪問当日に行う」ことについては改善をしサービスに反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指針における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束、抑制をしないことが当たり前と認識し、実践している。法人内の研修において具体的な行為も正しく理解している。日頃のケアの中で拘束にあたる可能性のあるものは、話し合っで見直しを図る。	身体拘束をしないケアに努め、職員は内部研修に参加している。一時的に拘束が必要と判断した場合は、他に方法がないか職員間で話し合いを行い、家族の同意を得て時間を決めて、定期的に見直ししながら取り組んでいる。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待防止の知識を高め、常に注意をはらい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修を通じて学ぶ機会があり、必要な時は活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際には、管理者が書類を開いて十分に説明させていただき、不安や疑問なく納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの要望には、できるだけ応えられるように努めており、家族からの意見、苦情も随時受け入れられている。家族会があり、意見を反映する機会がある。	家族の来訪時や家族会開催時に意見を聞くようにしている。定期的に利用者の健康状態や暮らしぶりについて書面で報告をし、意見収集につなげている。すぐ対応できるようにと記名式の「意向・満足度調査」を年1回実施している。	玄関には意見箱も設置しており意見の把握に努めているが、中には遠慮して意見を言うことができない場合もあるかもしれない。引き続き意見を聞き取っていく事が期待される
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、スタッフ会議、管理者会議、総会にて、現場の意見を聞いたり、互いの課題を見出す機会がある。	職員からは月1回のスタッフ会議や日々のケアの中で意見を聞いている。職員の意見から出たリビングの席替えやテーブルの高さの変更などは、話し合って変更した。また管理者は働きやすい職場にするため、シフトなども職員に聞いて反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の意見や提案に耳を傾け、常に職員の働きやすい環境をと心を配り、職場環境、雇用条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の段階に合わせた講習、内部研修に積極的に出席してもらい、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や資格取得のための講習時に、同業者との意見交換や情報交換をし、サービスに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と面談し、要望や不安なことを聞き取り、その情報を全職員が共有し、統一した安心できるサービスを提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事、不安な事または、要望を丁寧に聞き取るとともに、密に連絡を取り合う事で安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談により、どのような支援を必要としているかを見極め、ケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	誕生会、季節のイベント、外出などを一緒に楽しんだり、家事や買い物等の日常生活を共にしている。食事は手作りし、職員も一緒に同じものを食べている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、来訪していただき、居室でゆっくり過ごしていただいたり、食事介助をお手伝いしていただくこともある。各イベントの参加や外出・受診にも付き添っていただく事がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、友人などの来訪もあり、正月、お盆、冠婚葬祭など、一時帰宅も支援している。電話や手紙のやりとりも支援している。	近隣から入居した利用者が多いので、友人が面会にきたり、友人宅へ遊びに行くなど交流が多い。親戚が集まるお正月には家で過ごしてもらうようにするなど、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	相性を考慮するなど、利用者同士が良好に 関わり合える場面をつくるお手伝いをしてい る。万が一トラブルとなった場合は納得され るまで、傾聴している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子や生活を気にかけて、退所後の 家族の相談にもものっている。退所後も家族 会に在籍し、協力して下さるご家族もいる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ひとりに対し、常に感心を持って会話を したり、接することで、本人の思いや希望、 意向を把握しケアプランに反映させている。	外出、畑仕事など、入居以前の生活を少しで も継続できるように支援している。困難な人 には入所時のアセスメントや家族からの情報 をもとに本人本位になるように個別支援をし ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人との会話の中で聴きだしたり、家族と話 す機会がある時に、詳しく聴き、できるだけ 生活に取り入れるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状況を把握し記録として 残し、全職員が共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	各利用者に担当職員がつき、月1回モニタリ ングを行い、スタッフ会議で検討した内容も 含めて、ケアプランに反映させ、本人、家族 に説明し了解を得ている。	モニタリングは各利用者を担当する職員が毎 月行っている。モニタリングや日々の記録、 家族の意見などを踏まえ、介護計画を作成し ている。介護計画は6か月ごとに更新するよ うにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りファイルを医療、生活、家族連絡に 分けて、小さな気づきを全職員で、共有しケ アに活かせるよう努めている。必要に応じ、 ケアプランの見直しも行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	9名中7名が24時間対応の訪問診療所を利用している。急な体調不良の通院には、事業所の車を利用し、職員が付き添いで対応している。本人希望の買い物や、会いたい人に会えるよう手配するなど、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りなど、地域のイベントに参加することで、住民の方々と共に楽しめる、良い交流の機会となっている。散歩の際は、挨拶を交わしたり、名前を呼んで声をかけてくださる方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医と連携を取り、24時間体制で医療が受けられるようにしている。必要な時には、訪問歯科や他医療機関とも連携をとっている。	ほとんどの利用者が訪問診療医と契約を結んでおり、ホームの看護師と共に健康管理を行っている。契約を結んでいない人は家族対応を基本としているが、職員も同行するようにしている。都合の悪い時や緊急時は職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職に利用者の日常の状態や、気づいたことを随時報告、相談している。看護職は利用者の体調を確認し、必要に応じて主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、職員が面会し、本人の状況を把握し、医師、看護師、職員、家族と相談し合い、早期退院に努めている。病院の地域連携室と情報交換や相談にも応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を重視し、重度化や終末期のケア方針について、本人、家族、主治医と十分に話し合い決定している。	重度化した場合は、医師とホームから指針に基づき家族に説明をし、同意を得ている。延命処置についても確認している。家族、医師、ホームは段階ごとに確認しながら、同じ方向性で支援ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、急変時の対応に備えている。内部研修においても急変時・事故発生時の対応について講義を受講している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立合い指導のもと、訓練を受けている。また、定期的に火災、地震等に設定を変えて、マニュアルに基づいて避難訓練を行っている。地域の避難訓練にもスタッフが参加している。	消防署立ち合いの火災訓練、地震想定訓練など、年3回実施している。消防署への通報訓練、消火器の訓練も行っている。備蓄品はヘルメット、懐中電灯、水のほか、法人として非常食を用意している。今後は近隣住民への声かけも検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけを行っている。本人の思いには常に共感を持って傾聴し、入浴や排泄時にはプライバシーに配慮して介助している。	トイレのドアを開けたまま介助をしない、入浴時は同性介助ができることを伝えるなど、プライバシーに配慮した、個々を尊重した支援を心がけている。職員は接遇マナー研修を受講し、人を傷つけない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりから、本人の希望や思いを聴き出し、利用者側から決定できるような声掛けをしている。又、出来る限りその希望に沿えるように支援している。ご家族様との外出は積極的に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を見ながら、体操やアクティビティーのお誘いしたり、日光浴や散歩の声掛けをし、気分転換していただいている。本人のペースに合わせて押し付けにならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなものを選んで着ていただいている。選ぶのが難しい方は、一緒に選ぶなどして支援している。お化粧や小物でお洒落して、行事に参加している。こまめに髪をカットできるよう、訪問美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物、食べたい物を聞き、一緒にお買い物をしたり、メニューにとり入れたり、おやつに提供している。畑で育てた野菜と一緒に収穫している。食事の盛り付け、食器拭きも手伝ってもらっている。	利用者と一緒に買い出しに行き、好みの物を聞いて献立に反映している。漬物が好きな利用者と糠漬けを作ったり、家族からの差し入れ、ホームの畑で採れた野菜が食卓に上がることもある。また、外食にも定期的に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、適した量や形態にして提供し、食事量、水分量はチェック表を用いて把握している。食材がすすまない方には、ご飯がすすむようにふりかけや漬物を添えたり、旬の果物も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄、歯磨きなど、利用者に合わせて口腔ケアを行っている。自分では、難しい方には、介助して行っている。必要に応じ、訪問デンタルに診てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人のトイレに行くタイミングに合わせて排泄支援している。また、衛生面に配慮したサポートをしている。	トイレでの排泄を基本としているが、尿意を伝えられる人が少ないため、排泄チェック表を活用し、トイレ誘導をしている。排泄時のトイレ内への入室についても本人の意思を確認し、その時の身体の状態によって対応を変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、その方に合った対応をしている。水分量少なめの方には、甘い飲み物やゼリーを提供したりして、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気持ちを尊重し、入浴日や、時間をずらしたりして提供している。女性には同性介助で安心して入浴していただいている。	立位が保てない利用者も一般浴槽で温まって欲しいとの思いから、職員二人体制で週に2回は入ってもらおうようにしている。入浴を嫌だという利用者には無理強いせずに、曜日をずらして対応し清潔保持に努めている。また、ゆず湯など、季節を感じてもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいとの希望があれば、自室でゆっくり休んでいただいている。夜間「電気アンカ」や「ゆたんぼ」を使用し、心地良く入眠できるようにしている。室内に濡れタオルを吊るし、乾燥防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった場合は、医療ファイルに随時薬の作用や副作用について記入し、全職員が把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方、散歩の好きな方、歌が好きな方、体操が好きな方、それぞれの残存能力を考慮しながら、生活歴や好みに合った楽しみを日々提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物と一緒に出かけたり、外食ツアーを行い、ラーメンやうどんなど、好きなメニューを選んで食べていただいている。また、家族が近所にお散歩に連れて行ってくださっている。	散歩に出たり、季節の良い時期はテラスで日光浴を楽しんでいる。日常的に食材を買いに一緒に出かけたり、年間でイベントを企画してドライブを楽しんでいる。また、定期的に外食ツアーを企画し、ランチに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	福祉まつりやバザーなどに出かけ、欲しい物を選んで買ってもらっている。また、常にお金を身につけていないと不安な方にも、その生活習慣が続けられるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家族の声が聞きたい」「電話したい」と言われた時、すぐ電話できるよう家族と連携をとっている。家族からの写真や手紙を大事にしている方には、家族からたくさんいただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた手作りの壁飾りを貼ったり、モチーフを吊るしている。日光浴がお好きな方には、日当りのよい席にご案内している。寒い時にはすぐにひざ掛けが使えるよう、リビングに常備している。	今年は加湿器を増やして乾燥対策をした。リビングの室温は利用者により体感温度が違いため、ひざ掛けを用意して対応している。壁にはイベント時の写真や季節感を取り入れた掲示物が展示してあり、家族とのコミュニケーションにつなげている。また、掃除のボランティアを週2回受け入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士を近くに、静かな環境を好む方には、皆から少し離れた席に座っていただくなど、各々の性格や気持ちに沿った居心地の良い居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひ孫の写真や家族からいただき、アルバムを作り、いつでも見られるように自室に置いている。家族がお菓子を持ってきてくれるので、本人が自室で好きな時に食べられるように、衛生面などを注意し支援している。	入居時に馴染みの物を持ってきてくれるように書面にて説明をし、位牌や仏壇を持ってきている人もいます。お菓子が好きな利用者の部屋にはお菓子箱があったり、壁には家族の写真等を飾るなど、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるようにドア付近に、写真の入ったネームプレートを掛けたり、トイレにも「トイレ」と書いたネームプレートを掛けて分かりやすくしている。廊下には手すりを設置し、安全に歩けるようにしている。		